

# 2008年3月期 決算概要

2008年5月14日

NECエレクトロニクス株式会社  
代表取締役社長 中島 俊雄

<http://www.necel.com/ir/ja/>

## I. 2008年3月期 業績概要

- 第4四半期も引続き営業黒字を確保
- 年間では、着実な経営効率改善により、営業利益51億円を達成
- 海外子会社の繰延税金資産に評価引当金を計上

## II. 2009年3月期 業績見通し

- 円高のマイナス影響が大きいが、当初経営目標である最終損益黒字化を目指す（1\$=100円前提）

## III. 中期業績改善に向けた取り組み

- 費用構造改善と売上成長で10年3月期の売上高営業利益率5%を目指す

# I. 2008年3月期 業績概要

**<サマリ>** <第4四半期> <通期>

## II. 2009年3月期 業績見通し

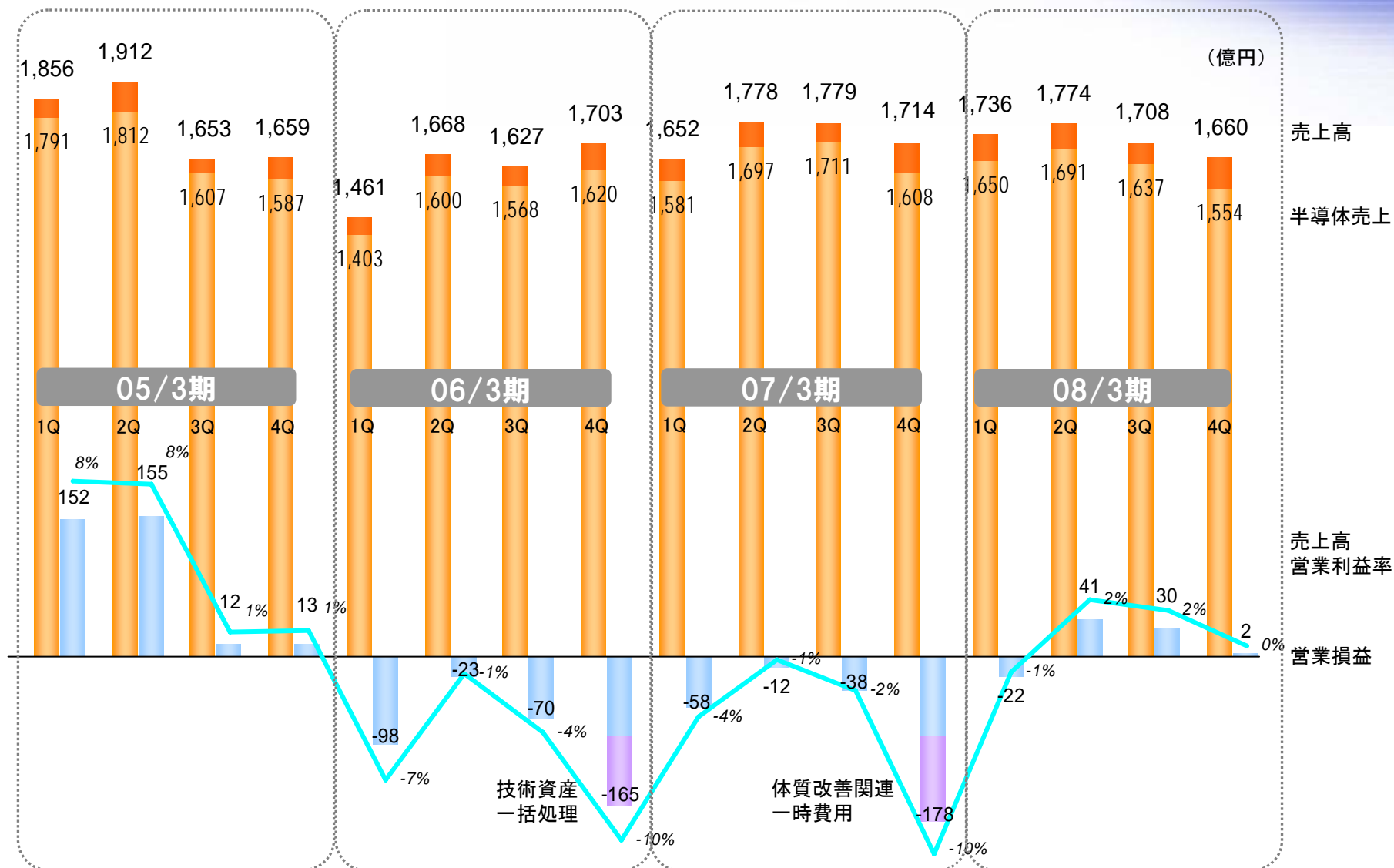
## III. 中期業績改善に向けた取り組み

# 08/3期 業績の概要

(単位:億円)	08/3期					
	4Q, 3/31			年度計, 3/31		
	実績	前年同期比	前四半期比	実績	前年度比	期初予想比
売上高	1,660	△54	△48	6,877	△45	△23
半導体売上	1,554	△53	△83	6,533	△65	△167
営業利益	2	+180	△28	51	+337	+51
税前利益	△67	+196	△84	△33	+321	+67
当期純損益	△120	+163	△111	△160	+255	△10
フリーキャッシュフロー	△38	+138	△28	55	+173	-
D/Eレシオ	0.51倍	-	-	0.51倍	-	-
株主資本比率	36.9%	△1.2%p	△1.9%p	36.9%	△1.2%p	-
為替レート	1US\$=109円 1Euro=160円	対US\$ 10円高 対Euro 4円安	対US\$ 5円高 対Euro 3円高	1US\$=116円 1Euro=161円	対US\$ 1円高 対Euro 12円安	対US\$ 1円安 上期)対Euro1円安 下期)対Euro6円安

注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業利益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

# 四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

# I. 2008年3月期 業績概要

〈サマリ〉 **〈第4四半期〉** 〈通期〉

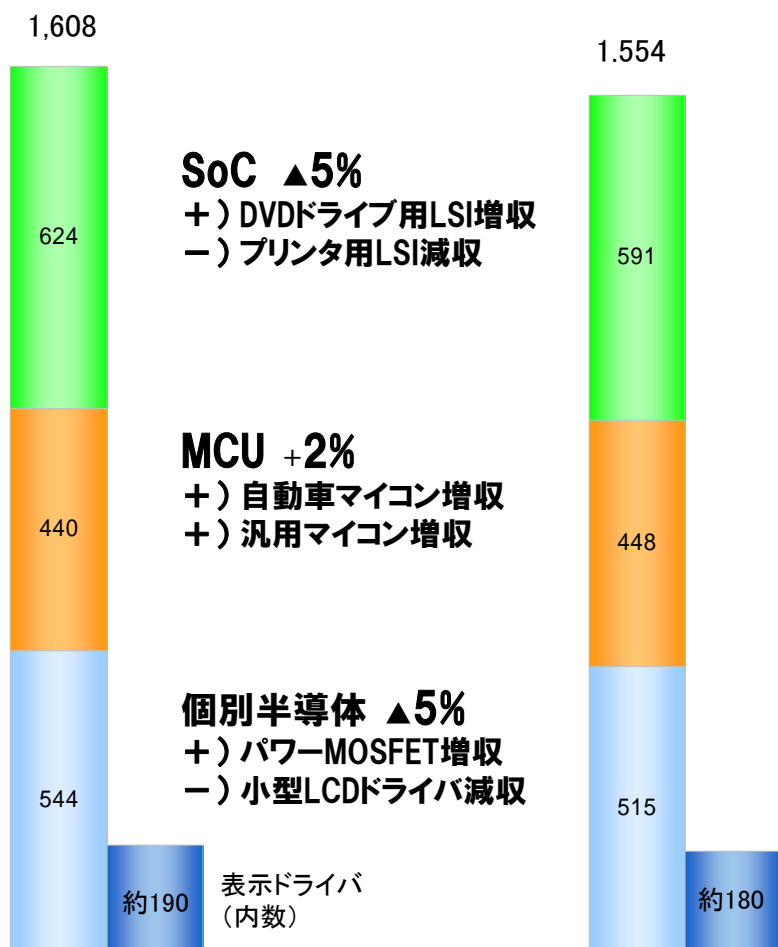
## II. 2009年3月期 業績見通し

## III. 中期業績改善に向けた取り組み

# 第4四半期 半導体売上高(製品別)

YoY

(億円)

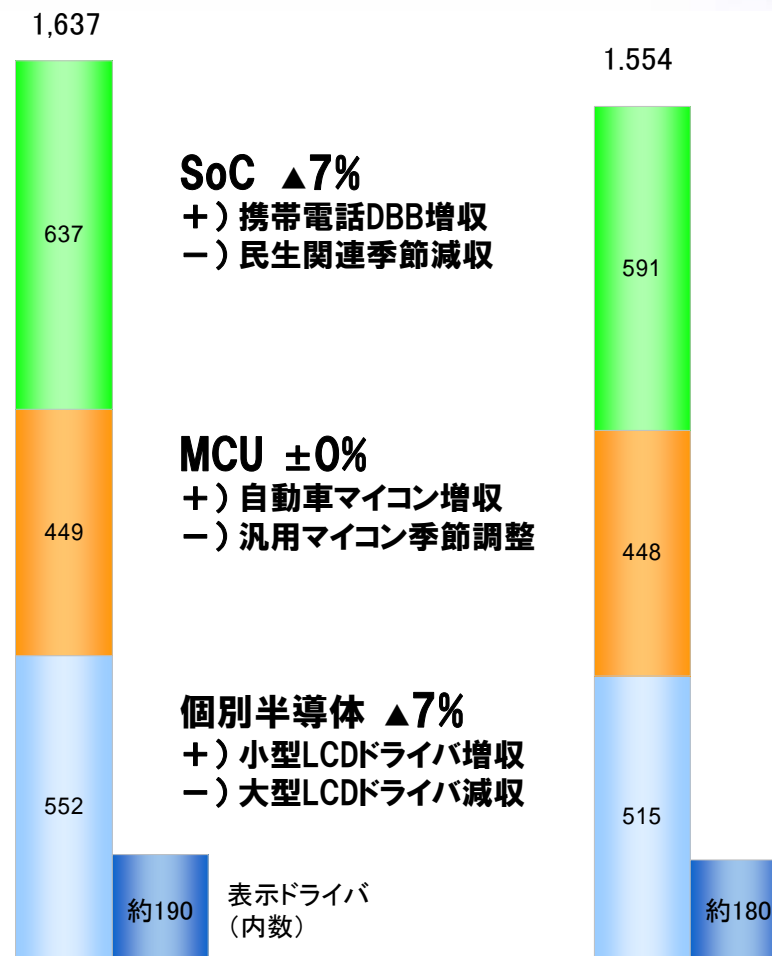


07/3期 第4四半期

08/3期 第4四半期

QoQ

(億円)



08/3期 第3四半期

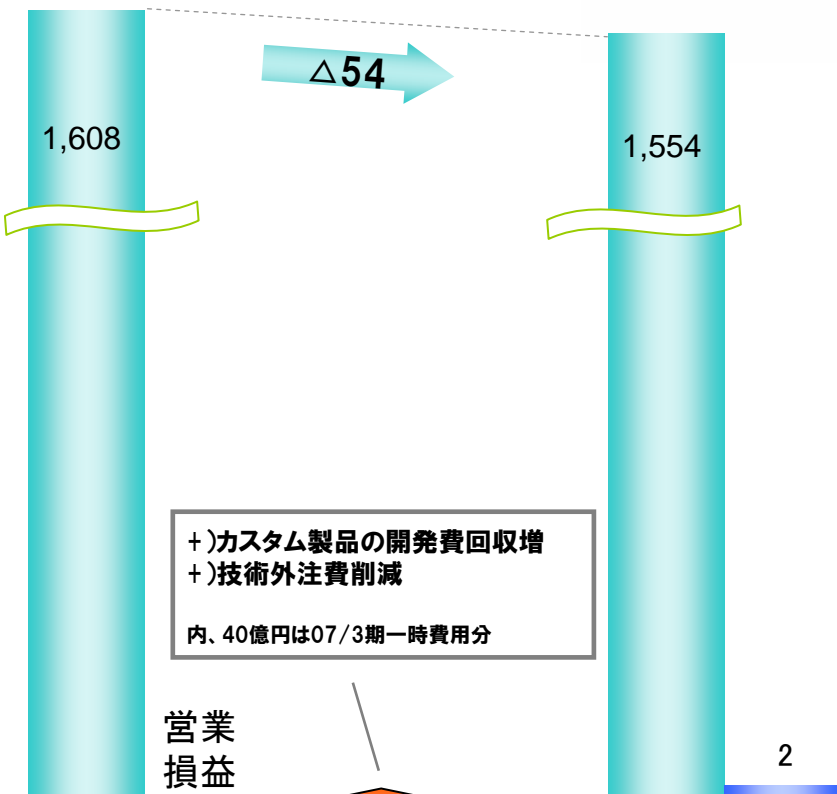
08/3期 第4四半期

# 営業損益の主な増減要因

半導体  
売上高

YoY

(億円)



+) カスタム製品の開発費回収増  
+) 技術外注費削減  
内、40億円は07/3期一時費用分

営業  
損益

$\Delta 178$

R&D, SG&A削減  
+129億円

GP増+51億円

+) 償却費減  
-) 売上減  
(為替影響含む\$=119→109)  
内、50億円は07/3期一時費用分

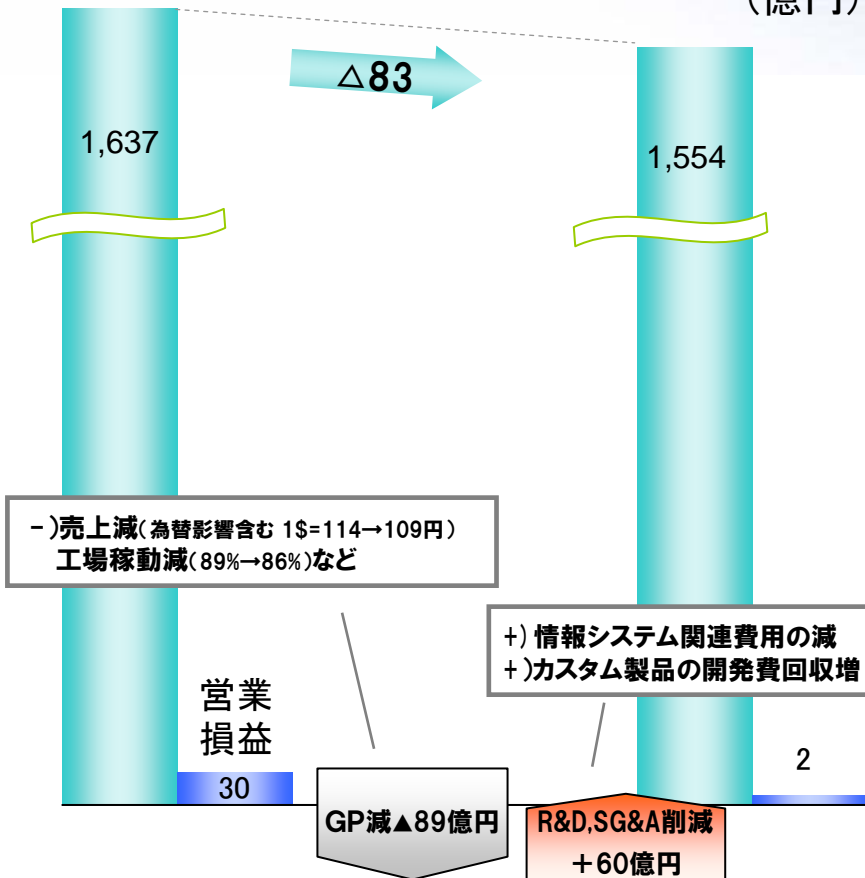
07/3期 第4四半期

08/3期 第4四半期

半導体  
売上高

QoQ

(億円)



-) 売上減(為替影響含む 1\$=114→109円)  
工場稼働減(89%→86%)など

営業  
損益

30

GP減▲89億円

+) 情報システム関連費用の減  
+) カスタム製品の開発費回収増

R&D, SG&A削減  
+60億円

08/3期 第3四半期

08/3期 第4四半期



# 営業外損益・法人税等

(単位: 億円)	07/3期	08/3期			
	年間	9ヶ月累計	第4四半期	年間	
	実績	実績	実績	実績	期初予想
	△68	△14	△70	△83	△100
営業外損益	主な雑収益	<b>フォトマスク事業譲渡</b> > 当社子会社NECファブサーブのフォトマスク事業を大日本印刷株式会社に譲渡 (2007年6月)			
	主な雑損失	<b>インドネシア工場閉鎖費用</b> > 挿入実装型パッケージ後工程工場 > 2007年11月から清算手続き開始  <b>生産再編関連費用</b> > 固定資産廃棄・売却損等	<b>早期退職関連費用</b> > 国内人員685人が本制度を活用  <b>インドネシア工場閉鎖費用</b>  <b>生産再編関連費用</b>		
法人税等	△51	△69	△54	△123	-
			<b>アメリカ子会社の繰延税金資産に引当金(約70億円)計上</b>		

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

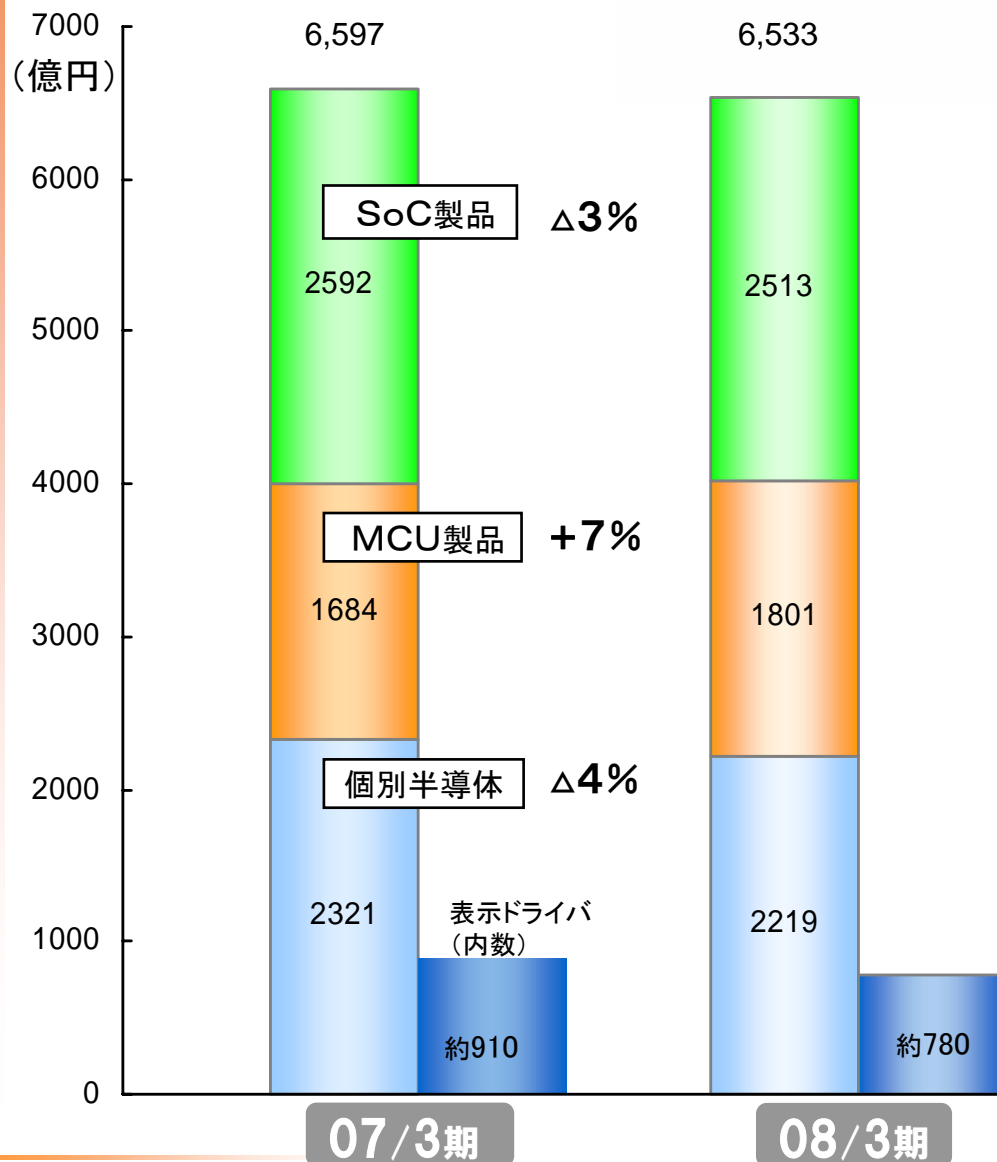
# I. 2008年3月期 業績概要

〈サマリ〉 〈第4四半期〉 **〈通期〉**

## II. 2009年3月期 業績見通し

## III. 中期業績改善に向けた取り組み

# 08/3期 半導体売上高



## 主な変化要因

### SoC製品

- + デジタルAV機器向けEMMAの売上拡大
- + ゲーム向けシステムLSIの売上増
- デジタルカメラ、プリンタ向けLSIの売上減

### MCU製品

- + 日本・ヨーロッパを中心に自動車向けマイコンの売上拡大
- + オールフラッシュの売上拡大

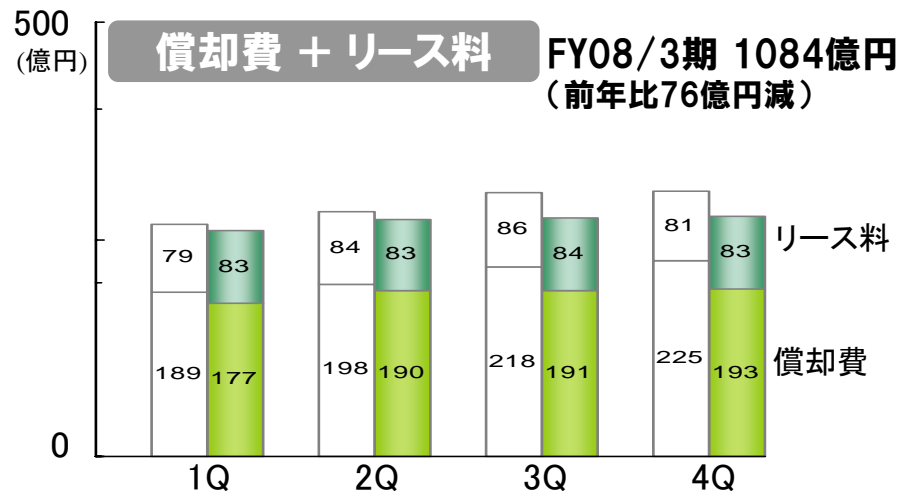
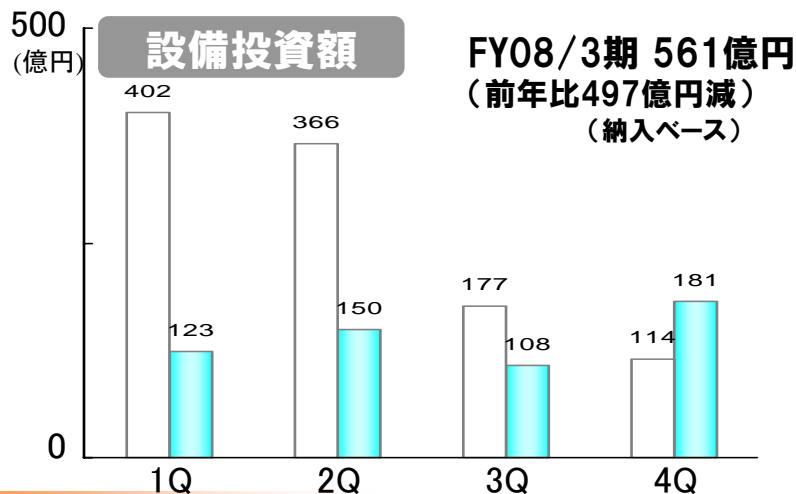
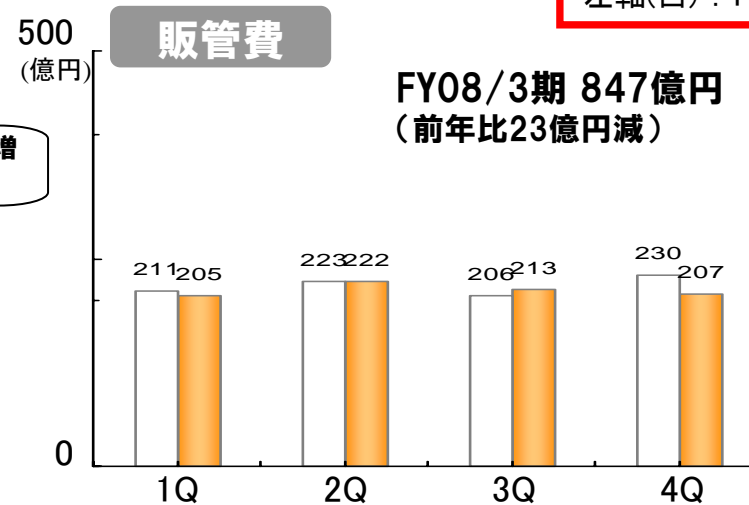
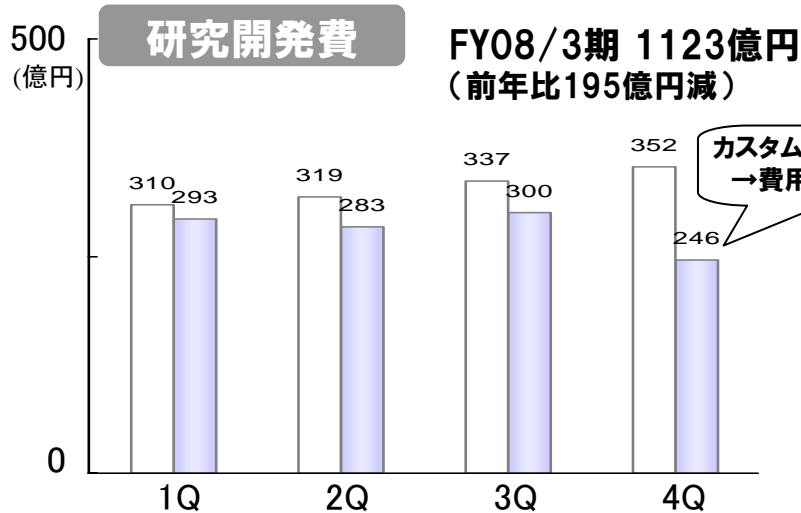
### 個別半導体製品

- + 大型LCDドライバの売上増
- + パワーMOSFET
- 高周波トランジスタ(化合物半導体)シェア拡大
- 小型LCDドライバの大幅売上減

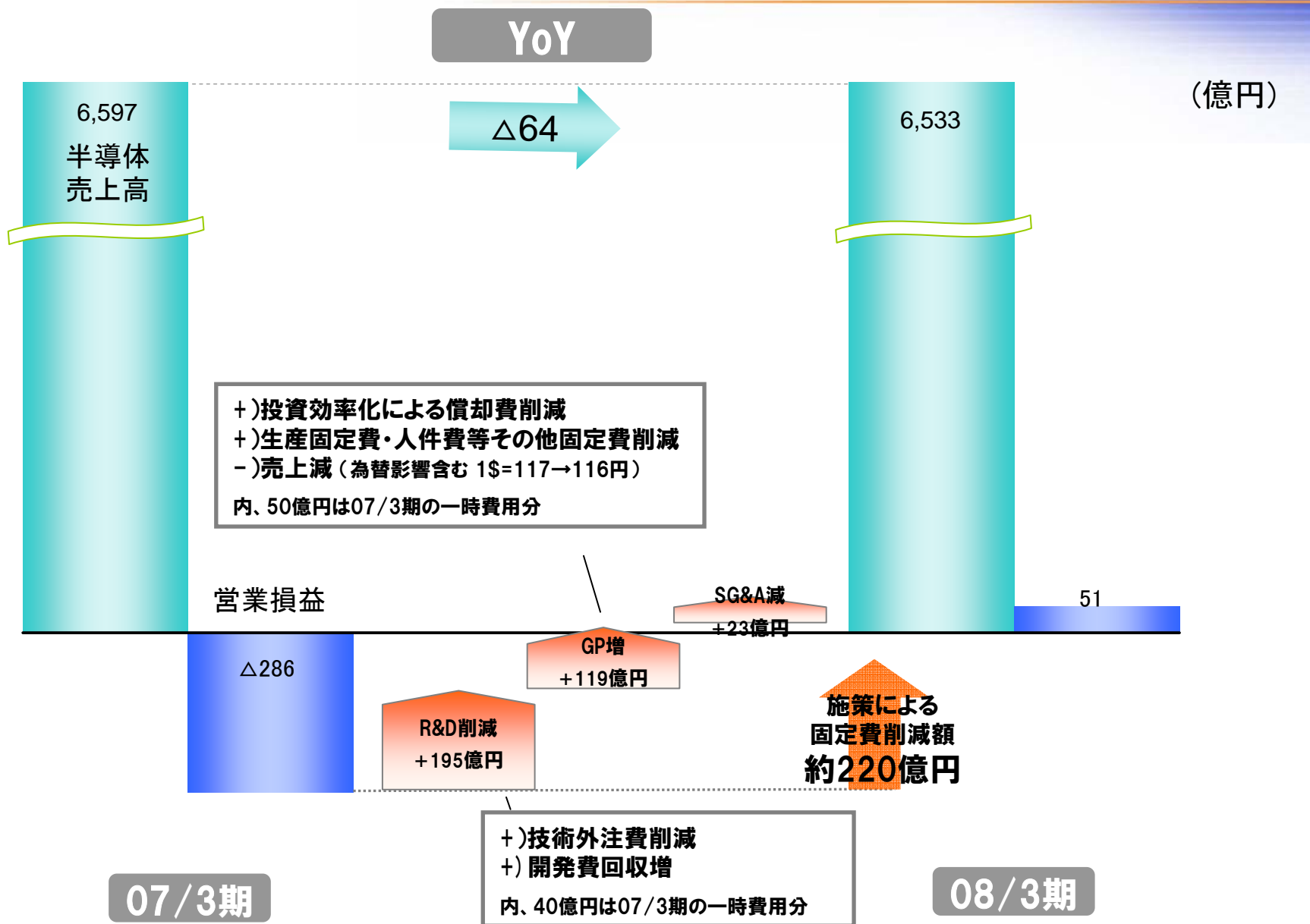
# 営業費用・設備投資など

**- 各種施策を着実に実行し前年度比220億円の固定費を削減  
(期初目標は200億円削減)**

グラフの凡例  
右軸(色) : FY08/3期  
左軸(白) : FY07/3期



# 08/3期 営業損益の主な増減要因



## I. 2008年3月期 業績概要

## II. 2009年3月期 業績見通し

## III. 中期業績改善に向けた取り組み

# 09/3期 業績予想

当初の経営目標である最終損益黒字化を目指す

(単位:億円)	08/3期			09/3期			
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	
	実績	実績	実績	予想	予想	予想	前年比
売上高	3,510	3,368	6,877	3,350	3,500	6,850	△27
半導体売上	3,341	3,192	6,533	3,200	3,300	6,500	△33
営業損益	19	32	51	30	70	100	+49
税前損益	18	△51	△33	0	40	40	+73
当期純損益	△30	△130	△160	△20	20	0	+160

為替レート

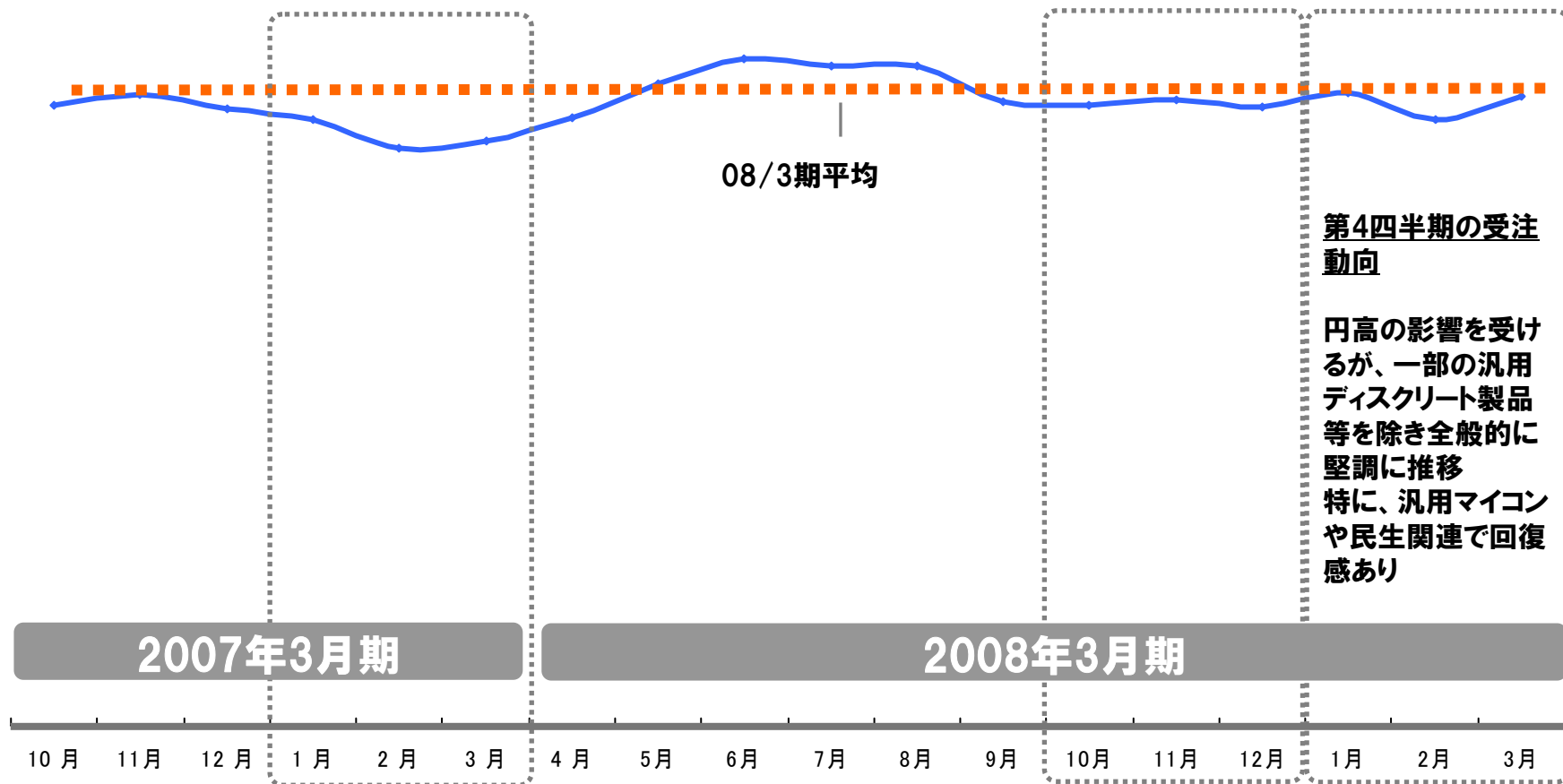
1US\$=	120円	112円	116円	100円	100円	100円	16円高
1Euro=	162円	161円	161円	160円	160円	160円	1円高

注1:当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです

注2:予想値は2008年5月14日現在

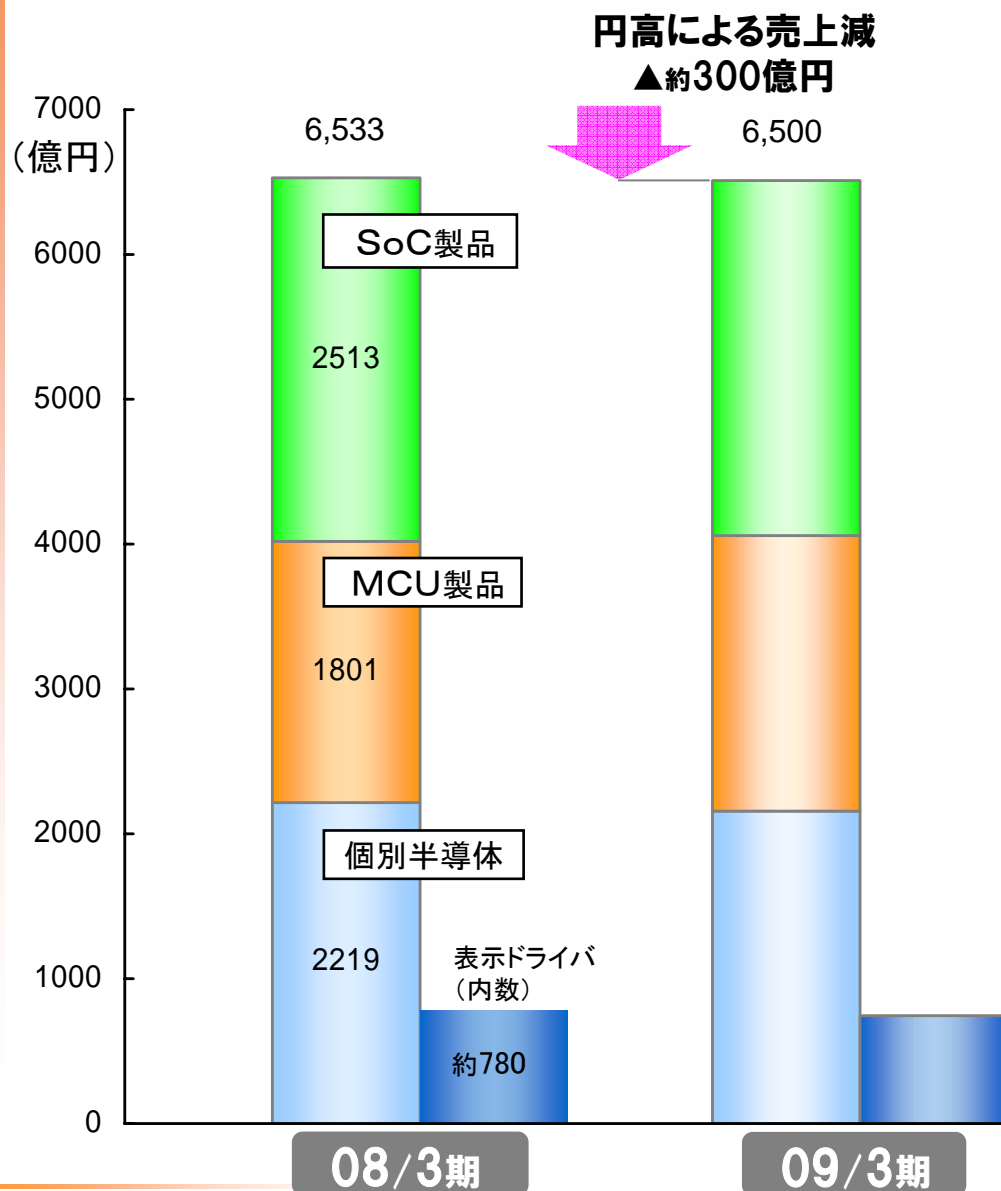
# 半導体受注高の推移

受注高(3ヶ月移動平均)





# 09/3期 半導体売上高見込み



## SoC製品

YoY 一桁前半パーセントのマイナス

- + ) デジタルAV機器向けEMMAの売上拡大
- + ) DVDドライブ用LSI売り上げ増
- ) デジタルカメラ向けLSIの売上減

## MCU製品

YoY 一桁中盤パーセントのプラス

- + ) 自動車マイコン/汎用マイコンの売上増  
(オールフラッシュの売上拡大)

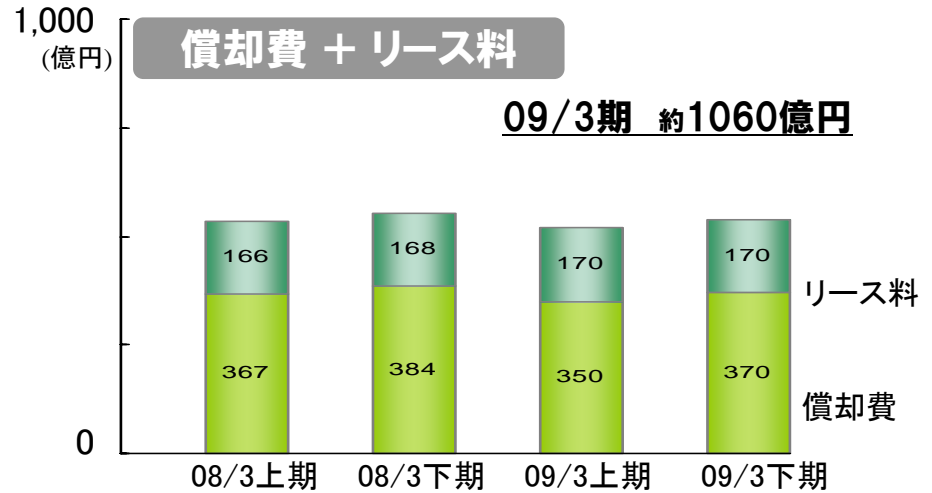
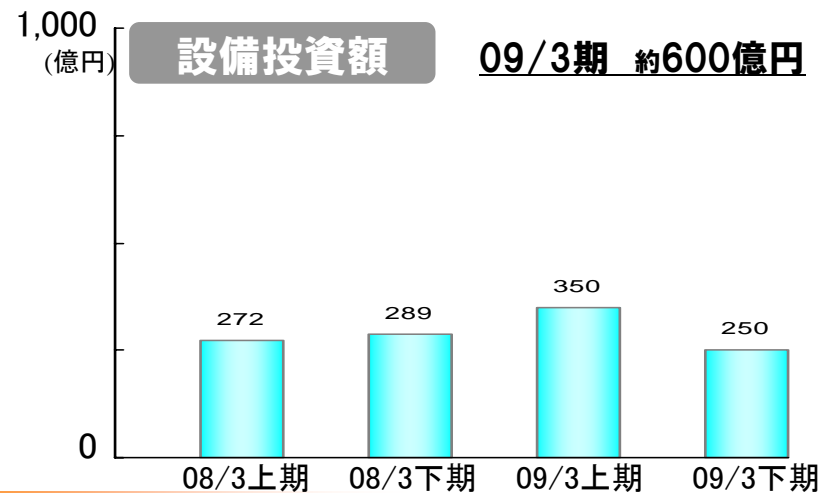
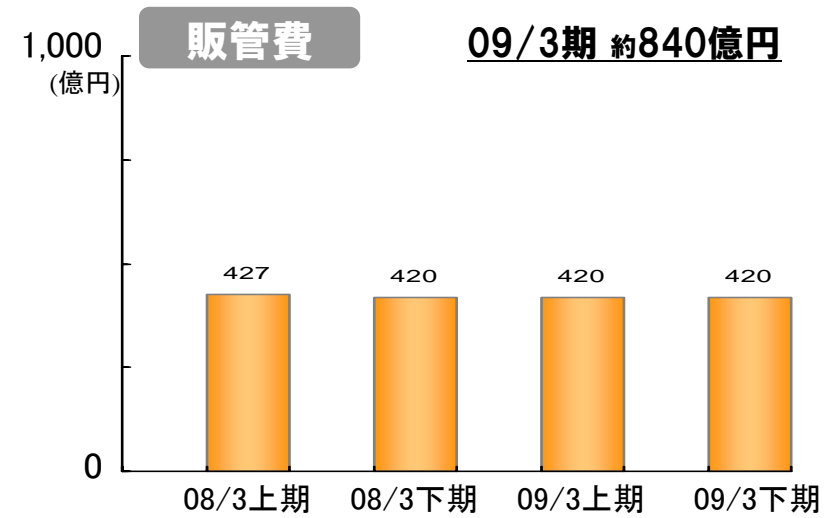
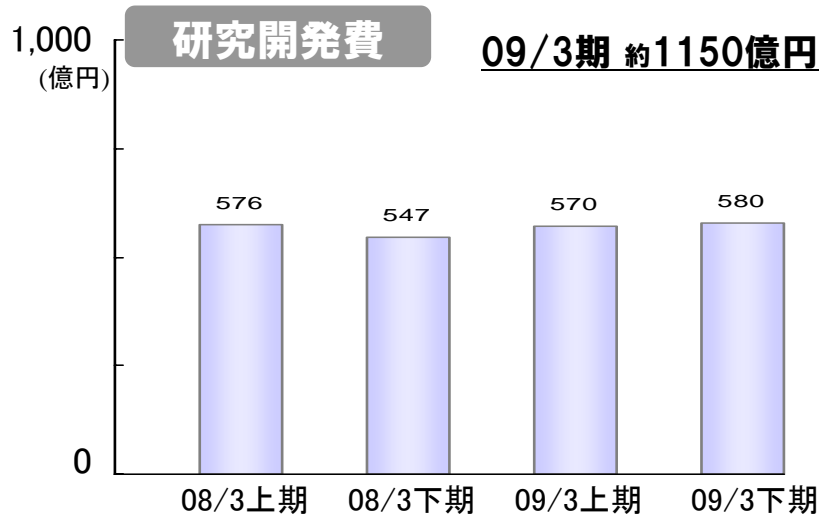
## 個別半導体製品

YoY 一桁前半パーセントのマイナス

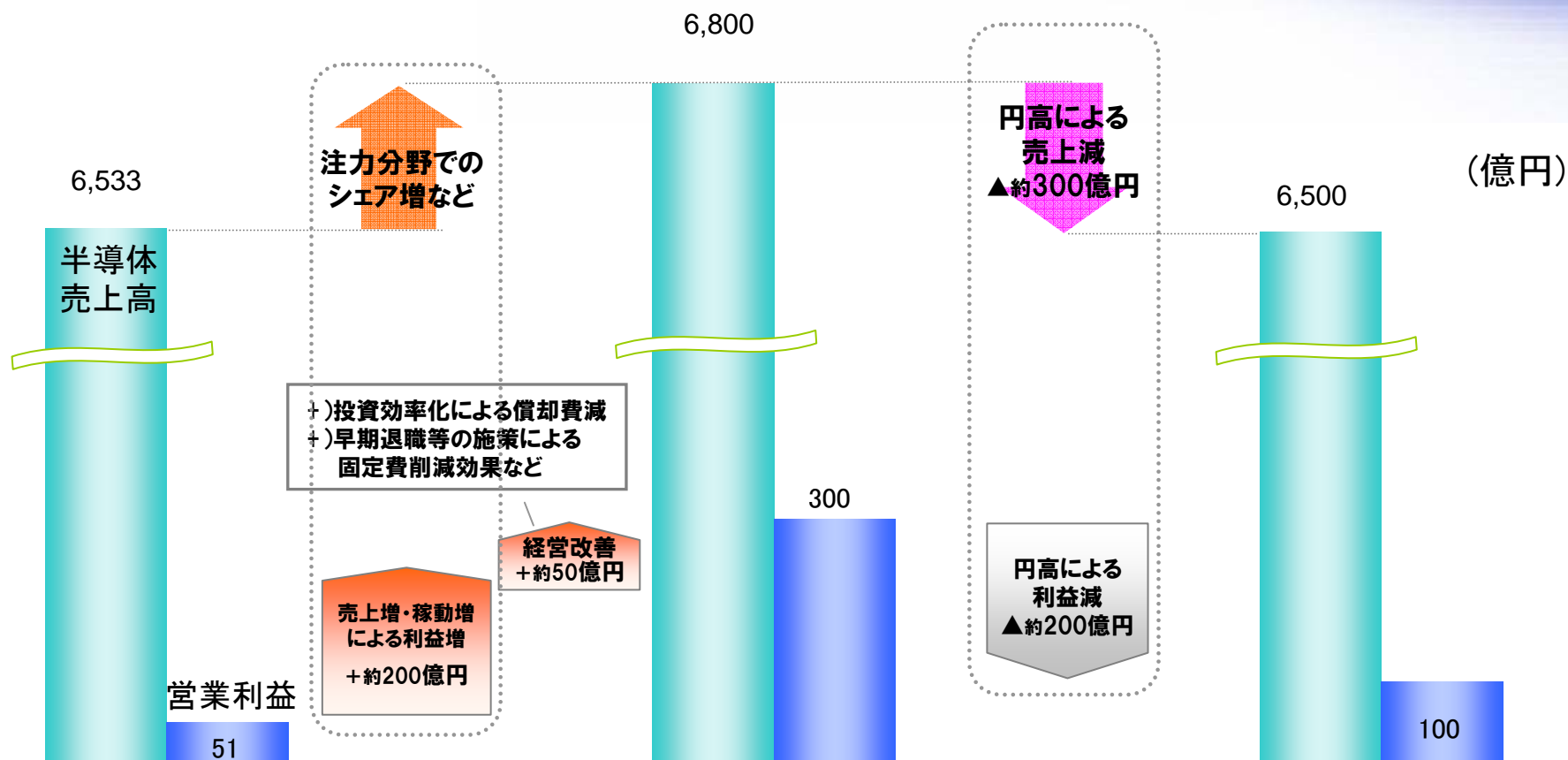
- ) 大型LCDドライバの売上減
- + ) パワー半導体、化合物デバイスの売上増

# 09/3期 営業費用・設備投資等の前提

徹底した効率化を継続しつつ、将来の成長に向けた投資を実行



# 09/3期 営業損益



1\$=116円前提(08/3期実績)

1\$=100円前提

08/3期

09/3期

**I. 2008年3月期 業績概要**

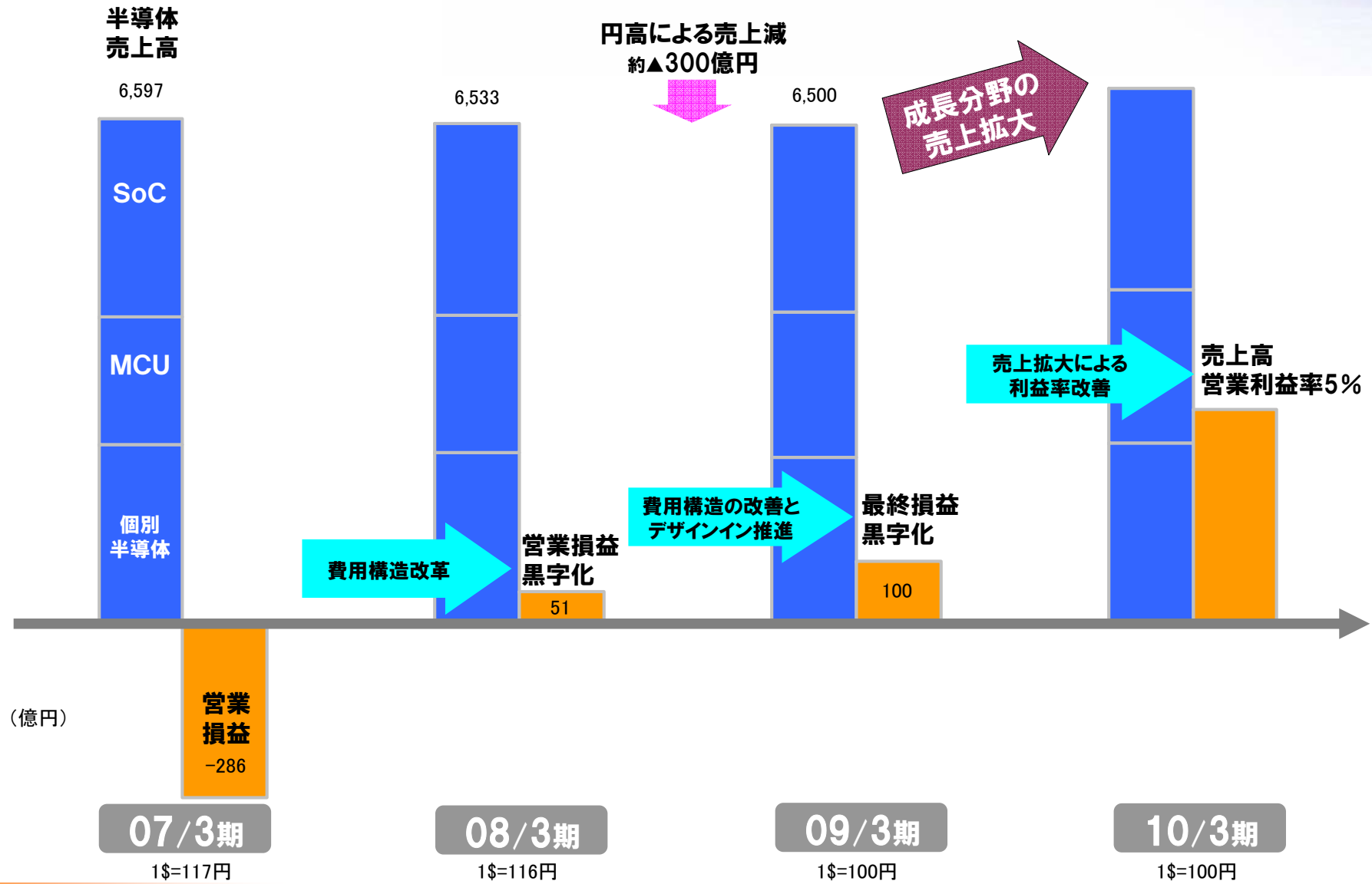
**II. 2009年3月期 業績見通し**

**III. 中期業績改善に向けた取り組み**

# 過去の体質改善施策

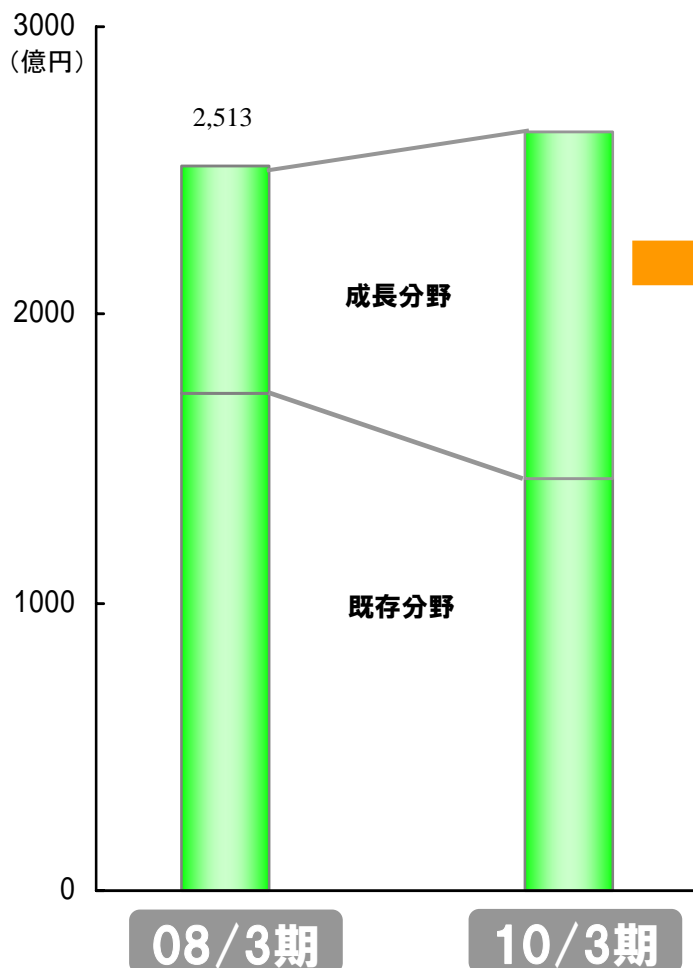
主な内容		進捗等
開発 ポートフォリオ 再構築	約600人相当の技術外注削減	実施済み
	約400人の社内開発リソースのシフト	実施済み
生産体制再編		一部ラインで設備移設と生産移管を実施中
前工程	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢九州8インチ、関西8インチの能力増強</li> <li>➢山形8インチ、関西6インチ、九州6インチ</li> <li>各ラインの集約、大口径ラインへの生産移管</li> </ul>	山形8インチ 08年12月閉鎖予定 九州6インチ 10年9月閉鎖予定 関西6インチ 時期等見直し
後工程	汎用製品の海外シフト	
事業組織体制	SoC、MCU、個別半導体の3事業をビジネスユニット化、損益管理強化	制度の構築完了 運用中
固定費削減	技術外注費削減、設備投資等の削減による生産関連固定費減、人件費含むその他固定費削減	実施済み 08/3期 前年度比220億円削減
追加施策 (2007年11月発表)	早期退職プログラム導入による人員削減	685人が本制度を活用し退社
	相模原300mmラインの閉鎖 先端開発機能を山形に移管	今年度中に閉鎖予定
	国内生産子会社をビジネスユニット毎に再編 6社→3社 製品群別の一貫した開発・製造の流れを構築	4月1日から新体制に移行。運用中

# 中期計画の概要



# 中期売上成長 SoC

売上成長を牽引する大型プロジェクト群が着実に進行中



## デジタルコンシューマ用LSI

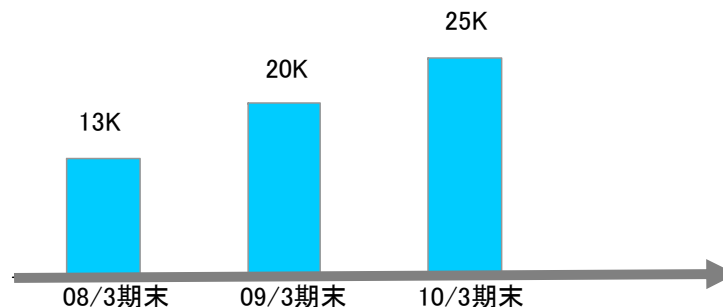
- 携帯電話分野はカメラ等特定機能LSIを集中強化  
複数の大手海外メーカーのグローバルモデル(カメラ付携帯)商談獲得済み
- デジタルAVプラットフォームEMMA  
ブルーレイDVD市場でもシェアNo1を確保する商談獲得済み  
デジタルテレビも顧客が国内外で拡大

## DRAM混載LSIの市場急拡大

- 55nm,さらに40nmによるローコスト化と大容量対応(業界最高の384Mb)が可能となり、画像関連の新規分野(DTV/携帯電話等)へ事業展開
- 世界No1の生産実績を武器に、国内外10社から商談獲得済み

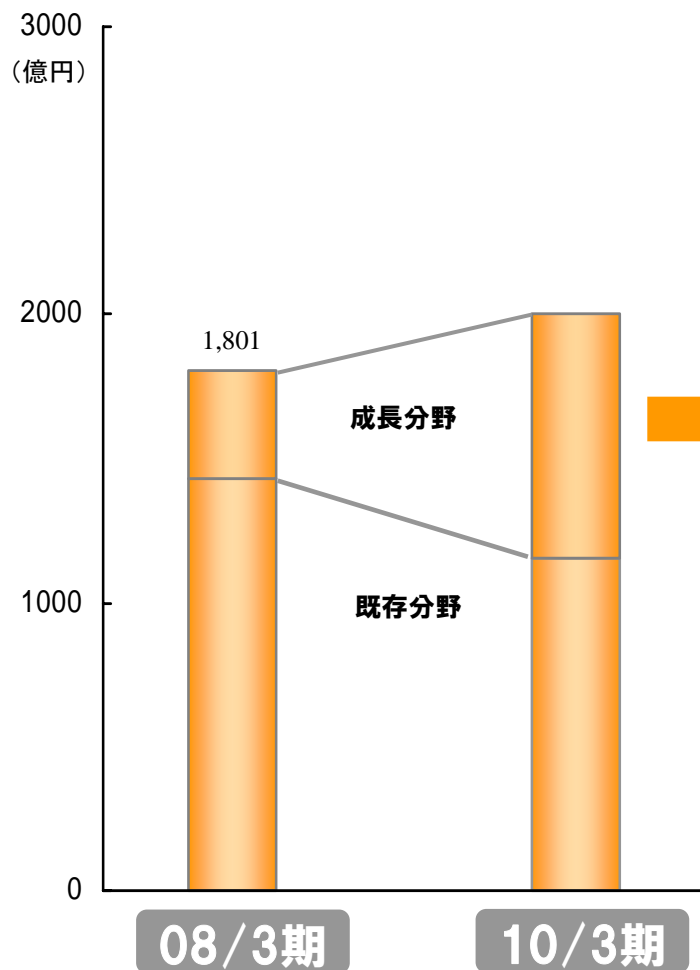
## 山形12インチ(300mm)ライン能力計画

- 今期投資600億円の枠内で月産20K枚に増強  
(一部、相模原R&Dラインの設備活用)
- 単一フロアの12インチロジック生産ラインとしては世界最大クラスへ



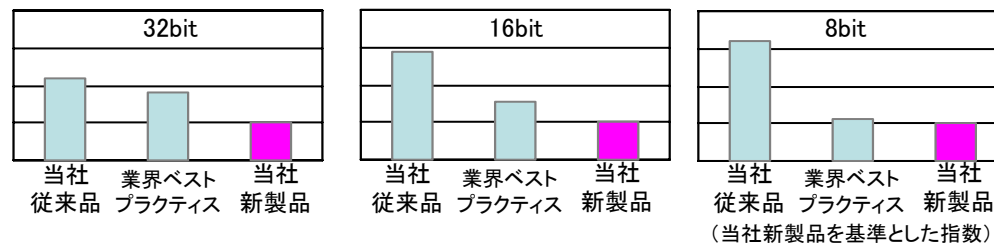
# 中期売上成長 MCU

## 自動車と汎用マイコンで確実な成長



### 超低消費電力エコロジーマイコン

➢ 当社独自のローパワー技術を結集したオールフラッシュマイコン投入



### カーナビ分野へ新規参入

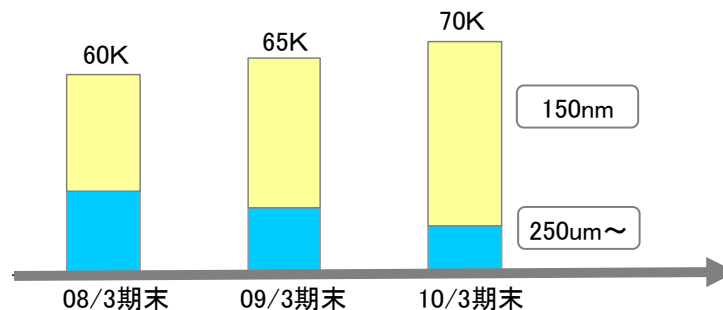
- マルチコア技術を車載対応55nmプロセスで製品化
- 複数の大型商談を獲得済み

### 微細化によるさらなるコスト競争力強化

- 150nm製品のラインナップ拡充(500製品)と生産能力拡大
- 車載対応90nmフラッシュマイコンの投入

### 九州8インチライン能力計画

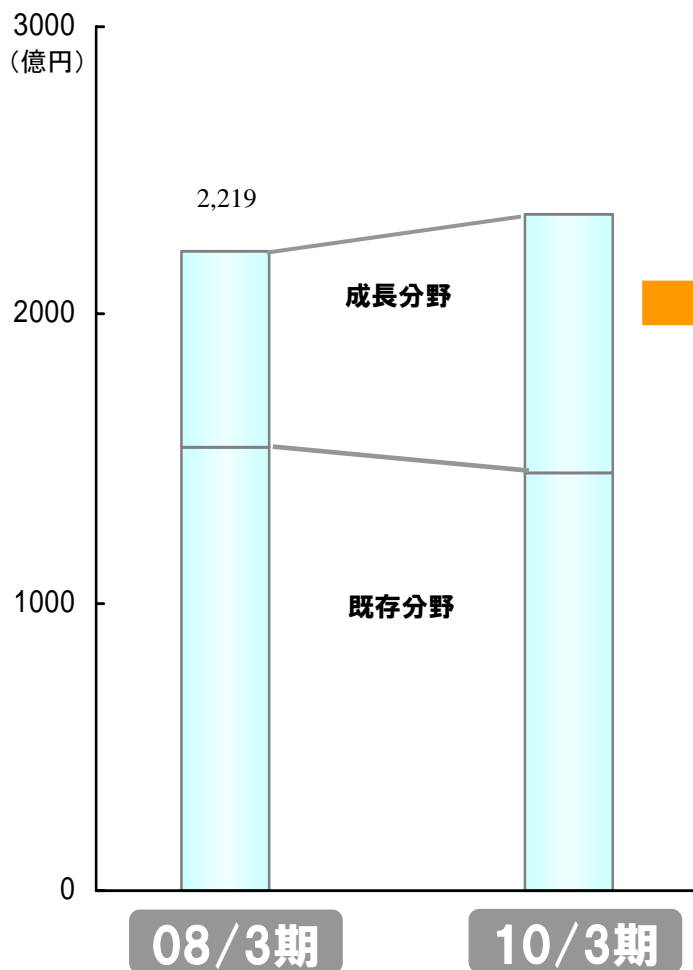
➢ 能力拡大と共に150nm比率を引き上げ





# 中期売上成長 個別半導体

「強い製品」への特化と、  
大口径化と外部生産活用によるコスト競争力強化



## パワー半導体 (パワー-MOSFET, システム電源ICなど)

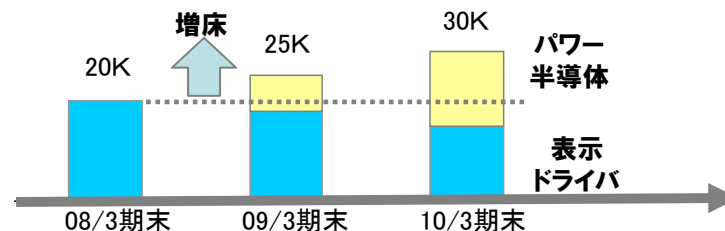
- 自動車・PC・バッテリー機器向けにフォーカス
- システム電源はインテル規格端末 (MID) のリファレンスとして採用決定
- 関西8インチラインを増床(プラス月産10K枚)し主力基地化

## 化合物半導体

- 世界シェアNo1製品の更なるシェア拡大
  - ・ガリウムひ素スイッチIC 世界シェア25% (07年当社調べ)
  - 携帯電話と無線LAN市場の急拡大
  - 大手無線LANチップセットメーカーとの共同開発でデファクト化
- ・汎用フォトカプラ 世界シェア20% (07年当社調べ)

## 関西8インチライン能力計画

- パワー半導体の8インチ化推進
- 表示ドライバは10/3期から外部生産を拡大し微細化を推進



# 本日のまとめ

NEC

昨年度(08/3期)は着実な経営効率改善により営業黒字を回復

引き続き、今年度(09/3期)の最終損益黒字化を目指す

来年度(10/3期)の売上高営業利益率5%に向けさらなる経営努力を行う。売上成長を支える新規プロジェクトが着実に進行中

# NEC

## NEC Electronics Corporation

### (将来予測に関する注意)

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下NECエレクトロニクスと総称します。)の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

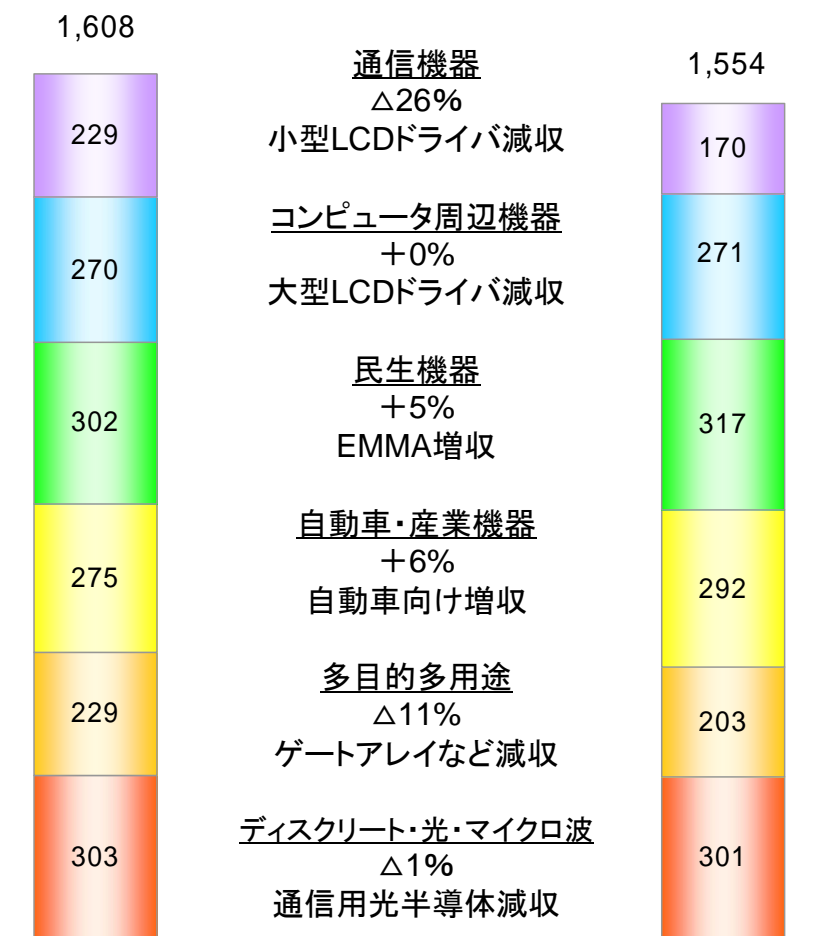
# 補足資料

# 第4四半期 半導体売上高(分野別)

YoY

QoQ

(億円)



07/3期 第4四半期

08/3期 第4四半期

08/3期 第3四半期

08/3期 第4四半期

# バランスシート

(単位:億円)		07/3	07/12	08/3
現金および現金同等物		1,854	1,889	1,655
受取手形および売掛金		995	926	964
たな卸資産		792	811	758
有形固定資産		2,962	2,738	2,591
その他の資産		356	313	195
<b>総資産</b>		<b>6,959</b>	<b>6,676</b>	<b>6,163</b>
支払手形および買掛金		1,325	1,174	1,073
社債および借入金		1,360	1,320	1,166
その他の負債		1,575	1,543	1,601
<b>負債</b>		<b>4,260</b>	<b>4,037</b>	<b>3,840</b>
少数株主持分		48	51	52
株主資本		2,651	2,588	2,271*
<b>負債、少数株主持分および資本合計</b>		<b>6,959</b>	<b>6,676</b>	<b>6,163</b>

\*その他包括損益累計額の減少等による

D/Eレシオ(グロス)	0.51倍	0.51倍	0.51倍
株主資本比率	38%	39%	37%

<補足>

繰延税金資産	107	108	30
繰延税金負債	109	141	111

# キャッシュ・フロー

年間フリー・キャッシュ・フローも2年ぶりに黒字回復

(単位：億円)	07/3期		08/3期		
	4Q	年度計	3Q	4Q	年度計
営業活動による キャッシュ・フロー	127	667	136	5	433
投資活動による キャッシュ・フロー	△303	△785	△147	△43	△378
フリー・ キャッシュ・フロー	△176	△118	△10	△38	55